

寺田定助奉納の布忍神社絵馬

西田 孝司(松原市文化財保護審議会)



▲寺田定助の名を刻む布忍寺鐘楼葛石の拓本



▲寺田家長屋門と供部屋・米蔵(北新町1丁目)



▲下高野街道沿いの寺田家の楠から布忍神社(左)をのぞむ



▲布忍神社「三武将図」絵馬

布忍向井村庄屋を勤めた寺田家源通・好右衛門を継ぐ地域貢献

江戸時代末期の嘉永元年(一八四八)八月、丹北郡向井村(現北新町)の庄屋であった寺田定助は、隣村の高木村(現北新町)や清水村(現南新町)の庄屋や年寄と共に、真言宗の布忍寺(高木村)の境内整備に尽力しました(歴史ウォーク²³²)。

本堂前に建つ鐘楼の基壇上面の葛石に、その様子が簡潔に記されており、観光ボランティアの「まつばらまちの案内人」の山本和明さんや今西敏さんに協力いただき、拓本にとることができました。肉眼では判明しづらい文字も鮮明に分かり、成果をおさめることができましたのです。

寺田定助については、翌年の嘉永二年(一八四九)八月に氏神の布忍神社(北新町二丁目)に色あざやかに今も残る「三武将図」絵馬を奉納したことも知られています。境内西南側に絵馬堂が建っていますが、堂内に中国・三国時代(三世紀)に興った蜀の劉備・関羽・張飛の三武将を描いたと思われるものが掲げられています。三国とは、中国で後漢が二二〇年に滅び、魏・呉・蜀の三国が分立した時代であり、日本では邪馬台国・卑弥呼の時代にあたります。そのうち、蜀は劉備が創始し、関羽や張飛が劉備を助けて武勇に活躍しました。

絵馬は板地着色で、法量(寸法)は縦約一一センチ、横約九十二センチを測ります。人物像の上に「奉納御神前」とあり、枠の右に奉納者である「向井村寺田定輔安真」と記されています。枠の左には奉納年月の「維嘉永式歳屠維作画八月吉辰」と見られます。絵師については、図柄右下に「東月画」とあり、署名や落款もありました。東月という人が描いたものです。ただ、寺内成仁宮司によると、絵馬は、別に描かれていた板絵を切り取り、奉納額にはめこんだのではないかと推測されています。また、「奉納御神前」も、この時期は右書きが普通ですが、今風の左書きなのも違和感があります。

布忍神社では宝永二年(一七〇五)十一月十三日に奉納された「布忍八景扁額」(市指定有形文化財、「歴史ウォーク」71)が有名ですが、寄進者の願主の一人として好右衛門安林の名が見えます。好右衛門は定助の数代前の庄屋で雅号を安林としたように、ここでは定輔と記した定助も雅号に安の字をつけて安真としているのです。もともと、八景扁額は布忍神社に奉納されたものと、庄屋宅の寺田家にもそれぞれ四枚一組があったものです。

寺田家は、西除川に沿う下高野街道に面して、樹齢約一五〇年前後の二本の楠の巨木とともに屋敷が広がっており、対岸には布忍神社がのぞまれます。重厚な長屋門は、今も南面して残っ

ています。領主であった丹南藩主高木氏が向井村を治めるようになった江戸時代半ばごろには建っていたようですが、現存している門は昭和九年(一九三四)に改築したものです。門の左側には高木氏家臣らがひかえた供部屋や米蔵も備わっています。

定助は幕末の慶応元年(一八六五)七月二十六日、七十四歳で生涯を閉じました。聴憶聞休良諦善士と戒名がつけられ、江戸時代までの寺田家の檀那寺であった融通念仏宗の来迎寺(丹南三丁目)に墓石が建てられました。現在、寺田家の墓石は寺田家北側の同じ融通念仏宗の大林寺(北新町二丁目)にあります。これは明治時代以後からのことなのです。

藩主高木氏の菩提寺でもある丹南・来迎寺は、江戸時代前半以降、今見られるように寺観を整えていくのですが、その再興に尽力した方丈(住職)が九世源通でした。実は、源通はこの寺田家の出身で、延享二年(一七四五)に八十一歳で亡くなりました。来迎寺墓地には、歴代方丈の墓石が並んでいますが、後列は中央に祀られる源通の墓石の裏には、「丹北郡向井村」寺内氏之苗裔(寺内氏は寺田氏の旧姓)と刻まれています。

村政に関わる庄屋であった定助には、源通や好右衛門など宗教人・文化人としての血も脈々と受け継がれていたのです。